

第6回鎌倉検定 1級ガイドンス サマリー (要旨)

鎌倉観光文化検定 1級ガイドンス

講師 原田 寛 氏

1. ガイドンスの趣旨

このガイドンスは、2・3級が全問4択であるのに対し、記述問題など出題形式に異なる部分があるため、事前に出題方式などを説明するために設定したもので、対策講座ではありません。

従って、ガイドンスを聞かなくても、過去の問題を鎌倉検定のホームページで見えていただければ、おおよその想像はしていただけると思われます（もちろん改善努力をしていますので、まったく同じ設問方式というわけではないと思われます）が、定員の関係等で本ガイドンスにご参加いただけなかった方のために、ガイドンスのサマリーを鎌倉検定ホームページに掲載致します。

2. 試験の全体像

1級は鎌倉に関する正確で詳しい知識を求める試験ですが、入試問題のように振り落とすことを主眼としていませんので、過度にマニアックな出題はできるだけ避けるようにしているようです。

出題は全60問程度で、このうち4択問題が約1／3（20問程度）で、残りの2／3（40問程度）が記述式の問題になると予想されます。平均的な1級受験者でも、解答に50分近い時間が想定され、全問を見直す時間はほとんど無いと思われますから、ケアレスミスに注意して慎重に解答して下さい。また、思い出せない設問に過度に時間を費やさず、次に進むなどの見極めが極めて大切になります。

試験問題は副読本（『読んで分かる中世鎌倉年表』）からも出題されることになっていますので、どの程度出題されるのか心配されている方もいらっしゃると思います。さまざまな出題方式の中に部分的に紛れ込んでいることがありますので、厳密に何問とは言いきいのですが、例年の傾向を見ても、おおむね約60問中の1割、5～6問程度に関係してくると思われます。

さらに、今回は新版のテキストが発売されてから最初の試験になります。基本的には、新版・旧版のテキストで共通している部分から90％が出題さ

れるようですので、旧版のテキストで準備していただいても問題ありません。一部テキスト外からの出題という部分で、新版のテキストからの出題も考えられますが、公平性の観点から、可能性はそれほど高くないと思われます。また、テキスト外の出題については、建長寺唐門、英勝寺山門のように最近復興されたり補修されたりしたものは、時事問題として押さえておく必要がありますが、これまでの傾向では鎌倉市のホームページなども出典になっているようです。

いずれにしても、1級の試験も今回で4年目になりますから、過去問の類似問題が出題される確率は高くなっています。入口と出口が逆になっていたりすると思われますが、過去問題は必ず丁寧に確認しておいて下さい。

3. 4 択問題

2・3級の設問のように単純に正誤を問う問題だけではなく、多くの問題に若干の工夫が施されています。

例えば合戦とそれに関わる人物、作家名と関連する寺院名、仏像と寺院名、十井や五名水と寺院名、建築物と寺社名、建築物と人物、ハイキングコースと周辺に点在する物件などの組み合わせの正誤を問う問題が出る可能性があります。仏像については有名な仏像という観点に加えて、七福神や十三仏と寺院名という観点を忘れないで下さい。また、特定の事柄や場所、人物などについて記述された文章がいくつかある中で、「以下の源頼朝について書かれた文章のうち、誤っているものは幾つあるか」といったように、正しいものあるいは間違っただけのものが幾つあるかを4択で答えるような問題も想定しておいて下さい。更に、何人かの人物やいくつかの場所などを並べて、正しい順番はどれかといった問題も想定されます。執権の順番や有名御家人の時代順、寺社の創建年、主要な寺院の住職の順、戦乱の年代などの年代順を問う類です。

いずれにしても、2・3級のように消去法で正解を導くのは難しいので、やはり正確で詳しい知識が求められることになります。また、写真を見て答える問題が毎年出題されていますので、理想的には鎌倉を実地に歩くことをお勧めしますが、最低限テキスト掲載の写真とそのキャプション（写真を説明するために添えられた文字情報）については入念にチェックしておきましょう。以下の写真のうち国宝に指定されているのはどれかといった類いです。

また、記述式では以下の写真の寺社名や建物名を書きなさいといった類いの出題も考えられます。

「○○○について述べた以下の文章のうち正しい（誤った）ものは幾つあるか」といった問題を想定して、4択にしやすい項目（2～3つしか重要点があれば4択にしづらい）は読みこんでおく必要があります。

4. 記述式問題

あくまでも記述式の問題であって、論述式（○○について述べよ）の問題は出題されないでしょう。具体的には、ある文章の中に何箇所かの虫食いがあり、そのカッコ内を埋める形式がこれまでの傾向です。虫食い2箇所を両方正解して2点の配点になっている問題については、片方だけ正解しても得点されません。

また、設問によっては「漢字で記入せよ」などと最初に記述のルールが明示されていますので、見落とさないように注意してください。「漢字で」と指定されている場合は、テキストに記載されている漢字を記入しないと得点されませんから注意して下さい。鎌倉に関係の深い人物や書名、地名などの固有名詞を答えさせる場合に、漢字で記入せよという指示が入っています。あまりに常識的なものを除いて、一般名詞は漢字でも、平仮名、カタカナでも構わないという設問になっています。

そこで、“佛”日庵、“壽”福寺、“圓應”寺などのように、テキストでの表記が旧漢字になっている名称をチェックしておくのは当然ですが、他にも“太”平記、“大”平山のようにまぎらわしい文字や、甘縄神明“神社”のような固有名詞を明確にしておく必要があります。また虫食いの箇所が（）“寺”となっているところに（建長寺）のように記入してしまうと、結果として建長寺“寺”のように“寺”の字が重複してしまいますので注意して下さい。その他では船“おろし”と船“祝い”、“潮”神楽と“汐”まつりなど、まぎらわしい名称を正確に書き分けられるようにしておきましょう。

ルビ（ふりがな）振り問題については、石清水八幡宮（いわしみずはちまんぐう）、御谷（おやつ）、手斧始式（ちょうなはじめしき）、鉄ノ井（くろがねのい）、大巧寺（だいぎょうじ）、光触寺（こうそくじ）、十二所神社（じゅうにそじんじゃ）、蛭子神社（ひるこじんじゃ）、九品寺（くほんじ）、底脱ノ井（そこぬけのい）、葛原岡神社（くずはらおかじんじゃ）、大注連祭（おおじめまつり）、散在ヶ池（さんざがいけ）のように、誤読し

がちな単語を捜してチェックしておいて下さい。ルビ振り問題では、人名はこれまでに三浦大介義明（みうらおおすけよしあき）以外に出題されたことはありません。

5. 効果的対処法

有名寺社（鶴岡八幡宮、鎌倉宮、建長寺、円覚寺、東慶寺、覚園寺、瑞泉寺、光明寺、壽福寺、高德院、長谷寺など）についてはキーワードを関連づけて覚えておくと思われれます。

建長寺を例にすると、日本初の禅専修道場、鎌倉五山第一位、開山は蘭溪道隆（大覚禅師-日本初の禅師号）、開基は第五代執権北条時頼（鉢の木伝説）、梵鐘は国宝で物部重光作（鎌倉三名鐘）、地獄谷（心平地蔵）、法語規則（国宝）、ビャクシン（開山お手植え）、葛西善蔵『おせい』、半僧坊大権現（烏天狗）などがつながっていれば解答のヒントになると思われれます。加えて、国指定史跡なども確実に記憶しておきましょう。

また、主要な歴史上の人物（源氏三代、主要な執権、主要な足利氏、名僧など）についても、同様の勉強法をお薦めします。どちらの例も、歴史・寺社・文化財・文学など、複数の章にまたがっている項目があるため、このように一度整理しておくと思われれます。

さらに、出題者が実際に問題を作成するときのことを考えると、別称のある寺（竜巻寺・アジサイ寺・コケ寺など）や別称のある仏像（頼焼阿弥陀・身代わり地蔵・矢拾地蔵など）、伝説が残されているものなどは設問を作りやすいので要チェックと思われれます。

植物に関連した設問では、各植物を代表する寺社（たいていは各植物の項の最初の方に記述されています）や、英勝寺のヤマブキのような伝説や史実にまつわる植物、固有名称のある植物（覚園寺の太郎庵・荏柄天神社の古代青軸・安國論寺の源平枝垂れや妙法桜など）も設問を作りやすいため、出題されやすい傾向が見られます。サクラなどのように固有名称が複数あるものは、それだけで一問作成できますので要注意です。その他では、滑川なら上流から順番に別称、ハイキングコースなら起点と終点、沿線の史跡など、文学では書名、作者、関連寺社などを整理しておくと思われれます。また、名誉市民なども一応頭に入れておきましょう。

最後に、鎌倉は世界遺産登録を目指すまちですから、候補地を寺社・史跡・道など、ジャンル別に整理しておくことは忘れないで下さい。正誤問題の文

章のなかで、寺社や史跡の説明文に世界遺産候補であると記述されるケースと、「以下の史跡中で世界遺産登録候補地でないものはどれか」のような設問が可能性としては考えられます。テキスト作成からの時間経過により、世界遺産に関するテキストの記載内容と現時点の状況には相違がありますので、時事問題という観点から鎌倉市のホームページなどで最新情報を確認しておいて下さい。

テキスト外の予想をたてることはかなり困難ですが、今までの例では鎌倉市のホームページ、『鎌倉こども風土記』からの出題と、時事問題があります。

最後に、かなり時間が制約された中での検定になりますが、過去にもひっかけ問題が出されている例があります。選択肢文中の妻と母や関東十刹と関東十八檀林のように、取り違えやすい名称にはとくに注意をして下さい。

6. 質疑応答の内容

Q1 略字で記入した場合の正誤は？例えば、一般的によく書かれる「門」の略字（門の上部中央に短い縦棒）など。

A1 断定的なことは言えませんが、テキストに旧字で記載されているものは旧字でという正確さを求めている例からも、また漢字検定ではないというものの、略字にも一般的なものからかなり限定的なものまで多段階の可能性があることなどから、正しく書いておいた方が安全だと思われます。

Q2 記述式問題の点数配分について。1問題で2箇所記述の場合、現行では2箇所とも正解で点数加算となっているが、1箇所だけ正解の場合、1箇所分の点数加算と見直してもらえないか？

A2 重箱の隅をつつくようなマニアックな問題をできるだけ避け、なるべく必須の知識で出題し、同時に1級に相応しい難易度の問題を出題するためには現行の採点方法はやむを得ないと考えております。関連する項目について、より正確な知識を求めるという基本方針からも、部分的な知識では不十分だという視点も含まれています。この検定は合格者数に定員があるわけではなく、振り落すことを目的としていませんが、やはり1級にふさわしい“レベル感”をもたせることは必要だと考えています。

Q3 鎌倉検定ホームページに掲載されている昨年の1級ガイドンスサマリーの記述で、「葛原岡神社（くずはらおかじんじゃ）」の漢字がテキストとは異なりますが？

A3 テキストに記載されている漢字が正しいものになります。昨年（第5回）

のサマリーをご覧になられた方につきましては、混乱を招きましたことを深くお詫び申し上げます。この点につきましては、今年（第6回）のサマリーから改善致します。また、漢字など文字の問題だけでなく、学説的に2説あるような問題についても、試験上の正解はテキストの記載に準拠させていただくのが基本スタンスです。

Q4 新版と旧版のテキストに記載されている「大寶寺（だいほうじ）」の漢字が異なりますが？

A4 新版テキストが正しい記載になります。旧版テキストの記載につきましては、正誤表に反映致します。

以上